

学力向上特配Aの活用の具体的なアイデア

東部教育事務所

(1) 中学校区の連携による系統性を意識した教育活動の充実

- 学特Aが小学校に兼務して、一部教科担当を受け持つ。(例)
- 学特Aで生み出された時間を活用して、別の教員が小学校に兼務して一部教科担当を受け持つ。
- 学特Aの兼務によるゆとりを活用して、小学校教諭が中学校へ兼務し、免外を解消する。
- 学特Aの兼務によるゆとりを活用して、小小兼務を行う。

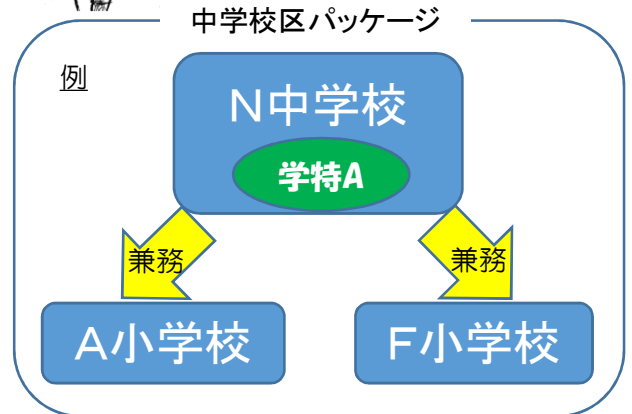
効果

- 中学校区内の系統性、連続性のある教育
- 同じ中学校への進学に向けた共通の素地づくり
- 免外を解消した専門性のある教育

教職員の特性の把握がカギ



校長先生同士の
連携・協力がカギ



(2) 小学校教科担当制による教科指導の充実

学特Aで生み出された時間を活用して、学年内や学年ブロックにおいて、一部教科担当制（専門性などの特性を生かした交換授業等）を行う。

効果

- 分かる授業の提供と教員の授業力向上
- 教材研究の時間の削減

きめ細かな指導の必要性がカギ

学力向上コーディネーターのリーダーシップがカギ

(3) 学力向上のための組織的な取組の充実

学特A（学力向上コーディネーター）を中心に、示範授業や参観指導を通して、組織的に学力向上に取り組む。
特に、はばたく群馬の指導プランや活用力を伸ばす『評価資料集』を活用する。

効果

- 教員の授業力向上
- 計画的、継続的な学力向上

(4) 実効性のあるきめ細かな指導の充実

31人以上の学級において、ねらい等に応じて少人数指導やTTなど指導体制を工夫する。

効果

- 習熟度など、実態に応じた教育

先生方が笑顔でよりよい授業をするために・・・すべては子どもたちのため

※ 一人一人の持ち時数を減らし、授業準備の時間を確保するためのアイデア

- 時数調整などによる少人数指導やTT指導は行わない。
- さくらプランや学特Bによる少人数クラス編成では、その効果や児童の実態を十分に考慮した上で、一人の担当者が標準的な人数以下で合同授業を行う。
- 教科担当制を拡大することで、教材研究の必要な教科を減らす。
- いつでも授業が見合える雰囲気をつくり、OJTを効果的に行う。

実態に応じて
検討してください。

